



平成 25 年 12 月期 第 1 四半期決算短信（非連結）

平成 25 年 5 月 31 日

会 社 名 ザ・レジェンド・ホテルズ&トラスト株式会社
 コード番号 2189
 本社所在地 東京都渋谷区本町一丁目4番16号
 問い合わせ先 責任者役職名 取締役
 氏 名 告野 充

グリーンシート銘柄
 本社所在都道府県 東京都
 TEL (03)5365-3201

1. 平成 25 年 12 月期第 1 四半期の業績（平成 25 年 1 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日）

- （注）1. 本四半期決算短信の数値は、未監査です。
 2. 千円未満は切り捨てて表示しております。

（1）経営成績

	売 上 高		営 業 利 益		経 常 利 益	
	千円	%	千円	%	千円	%
25 年第 1 四半期	6,780	(△23.6)	△4,629	(—)	△5,501	(—)
24 年第 1 四半期	8,870	(△27.3)	△6,383	(—)	△7,899	(—)

	当期純利益		1 株 当 たり 当 期 純 利 益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	自己資本 当期純利益率	総 資 産 経常利益率	売 上 高 経常利益率
	千円	%	円 銭	円 銭	%	%	%
25 年第 1 四半期	△5,574	(—)	△5 08	— —	△4.8	△3.8	△81.1
24 年第 1 四半期	△7,971	(—)	△7 41	— —	△2.4	△2.2	△89.1

- （注）1. 期中平均株式数 25 年第 1 四半期 1,097,800 株 24 年第 1 四半期 1,075,732 株
 2. 会計処理の方法の変更 有・**無**
 3. 潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益については、潜在株式は存在しますが、1 株当たり当期純損失を計上していることに加え、当社株式は非上場であり、期中平均株価の算定が困難なため、記載しておりません。

（2）財政状態

	総 資 産		純 資 産		自己資本比率	1 株 当 たり 純 資 産
	千円		千円		%	円 銭
25 年第 1 四半期	144,276	112,863	78.2	102 81		
24 年第 1 四半期	355,005	331,864	93.5	306 66		

- （注）期末発行済株式数 25 年第 1 四半期 1,097,800 株 24 年第 1 四半期 1,082,200 株

(3) キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期 末 残 高
	千円	千円	千円	千円
25 年第 1 四半期	△3,079	—	—	3,127
24 年第 1 四半期	△12,107	—	11,000	3,492

2. 平成 25 年 12 月期の業績予想（平成 25 年 1 月 1 日～平成 25 年 12 月 31 日）

当社の主要事業は「ホテル開発・運営事業」であり、ホテル開発・運営をセットで行う「直営型ホテル」と、既存ホテル等の運営のみの受託を行う「運営型ホテル」の両方を並行して行っていく方針であります。

現時点においては、「直営型ホテル」の第 1 号として千葉県 の物件を予定しておりますが、建設及び営業はいたしておりません。また、着工予定は未定となっております。

一方で、「運営型ホテル」の第 1 号として平成 24 年 4 月 2 日付にて「タラサ志摩ホテル」（三重県）の運営をタラサ志摩スパアンドリゾート株式会社から受託し、「ザ・レジェンドホテル タラサ志摩」として運営を行ってまいりましたが、ホテル運営方針の相違により平成 24 年 9 月 21 日をもって運営受託を終了いたしました。

当社としましては今回のホテル運営受託に伴うリニューアルオープンの実績が、第 2 号以降の運営型ホテルの受託に生きるものと確信しております。

前事業年度において企業会計ルールに基づいて減損処理を行ったことと「直営型ホテル」（千葉県）の事業継続性は別個の問題であり、今後も、「直営型ホテル」（千葉県）の会員権販売を継続して行うとともに、第 2 号「運営型ホテル」の運営を受注し運営実績を上げホテル運営の基盤作りと信用力向上を図ることが、「直営型ホテル」の会員権販売の加速に繋がると考えております。

これらのホテルが軌道に乗り、継続的な事業として確立するまでは不確実性が存在するため、当社では業績予想の開示は行っておりません。

第 8 期 第 1 四半期報告書

(平成 25 年 1 月 1 日から平成 25 年 3 月 31 日まで)

会社名 (定款上の商号)	ザ・レジェンド・ホテルズ&トラスト株式会社
英 文 名	The Legend Hotels & Trust ,inc.
コ ー ド 番 号	2189
代表者の役職氏名	代表取締役 嶋田 秀子
本店の所在の場所	東京都渋谷区本町一丁目 4 番 16 号
電 話 番 号	0 3 - 5 3 6 5 - 3 2 0 1
連 絡 者	取締役 告野 充

I 四半期の業績

(1) 損益計算書

(単位：千円)

科 目	期 別	第 8 期 第 1 四半期	当期累計	前年同期累計
		自 平成 25 年 1 月 1 日 至 平成 25 年 3 月 31 日	自 平成 25 年 1 月 1 日 至 平成 25 年 3 月 31 日	自 平成 24 年 1 月 1 日 至 平成 24 年 3 月 31 日
		金 額	金 額	金 額
I 売 上 高		6,780	6,780	8,870
II 売 上 原 価		1,665	1,665	2,481
売上総利益		5,115	5,115	6,388
III 販売費及び一般管理費		9,744	9,744	12,772
営業損失		4,629	4,629	6,383
IV 営業外収益		0	0	0
V 営業外費用		872	872	1,516
経常損失		5,501	5,501	7,899
税引前四半期(当期)純損失		5,501	5,501	7,899
法人税、住民税及び事業税		72	72	72
四半期(当期)純損失		5,574	5,574	7,971

※記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

(注)

科 目	期 別	第 8 期 第 1 四半期	当期累計	前年同期累計
		自 平成 25 年 1 月 1 日 至 平成 25 年 3 月 31 日	自 平成 25 年 1 月 1 日 至 平成 25 年 3 月 31 日	自 平成 24 年 1 月 1 日 至 平成 24 年 3 月 31 日
期中平均株式数		1,097,800 株	1,097,800 株	1,075,732 株
1 株当たり四半期(当期)純損失		5 円 08 銭	5 円 08 銭	7 円 41 銭
潜在株式調整後 1 株当たり四半期(当期)純利益		—	—	—

(注) 潜在株式調整後 1 株当たり四半期(当期)純利益につきましては、潜在株式は存在しますが、1 株当たり四半期(当期)純損失を計上していることに加え、当社株式は非上場であり、期中平均株価の算定が困難なため、記載しておりません。

(2) 事業部門別売上高

(単位：千円)

事業の部門	期別	第8期 第1四半期	当期累計	前年同期累計
		自 平成25年1月1日 至 平成25年3月31日	自 平成25年1月1日 至 平成25年3月31日	自 平成24年1月1日 至 平成24年3月31日
ホテル開発・運営部門		—	—	—
トラスト部門		—	—	—
コンサルティングサービス 部門		6,780	6,780	8,810
コンテンツサービス部門		—	—	60
合 計		6,780	6,780	8,870

※記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

(3) 貸借対照表

(単位：千円)

科 目	期別	第7期末	第8期第1四半期
		平成24年12月31日現在	平成25年3月31日現在
		金 額	金 額
(資産の部)			
I 流動資産			
1. 現金及び預金		6,206	3,127
2. 売掛金		928	59
3. 商品		672	672
4. 貯蔵品		1,180	1,165
5. 前払費用		251	251
6. その他		542	542
流動資産合計		9,782	5,819
II 固定資産			
1. 有形固定資産			
(1) 工具器具及び備品		61	57
(2) 建設仮勘定		127,200	127,200
有形固定資産合計		127,261	127,257
2. 無形固定資産			
(1) ソフトウェア		212	190
無形固定資産合計		212	190
3. 投資その他の資産			
(1) 長期貸付金		900	900
(2) 敷金及び保証金		10,880	10,880
(3) 長期前払費用		161	129
(4) 長期立替金		3,762	3,762
貸倒引当金		△4,662	△4,662
投資その他の資産合計		11,041	11,009
固定資産合計		138,515	138,457
資産合計		148,298	144,276

(単位：千円)

科 目	期 別	第7期末 平成24年12月31日現在	第8期第1四半期 平成25年3月31日現在
		金 額	金 額
(負債の部)			
I 流動負債			
1. 買掛金		66	—
2. 短期借入金		3,000	3,000
3. 未払金		2,336	2,273
4. 未払費用		2,703	2,625
5. 未払法人税等		1,031	1,460
6. 前受金		19,462	20,716
7. 預り金		1,258	1,332
8. その他		—	3
流動負債合計		29,859	31,412
負債合計		29,859	31,412
(純資産の部)			
I 株主資本			
1. 資本金		390,070	390,070
2. 資本剰余金			
資本準備金		288,270	288,270
資本剰余金合計		288,270	288,270
3. 利益剰余金			
その他利益剰余金			
繰越利益剰余金		△559,901	△565,476
利益剰余金合計		△559,901	△565,476
株主資本合計		118,438	112,863
純資産合計		118,438	112,863
負債純資産合計		148,298	144,276

※記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

(注)

科 目	期 別	第7期末 平成24年12月31日現在	第8期第1四半期 平成25年3月31日現在
	発行済株式数		1,097,800株
1株当たり純資産額		107円89銭	102円81銭

(4) 株主資本等変動計算書

当事業年度（自 平成 25 年 1 月 1 日 至 平成 25 年 3 月 31 日）

（単位：千円）

項目	株主資本				純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本 合計	
		資本準備金	その他 利益剰余金 繰越 利益剰余金		
平成 25 年 1 月 1 日残高	390,070	288,270	△559,901	118,438	118,438
第 1 四半期中の変動額					
四半期純損失（△）	—	—	△5,574	△5,574	△5,574
第 1 四半期中の変動額合計	—	—	△5,574	△5,574	△5,574
平成 25 年 3 月 31 日残高	390,070	288,270	△565,476	112,863	112,863

(5) 貸借対照表及び損益計算書の作成の基本となる事項

四半期貸借対照表及び損益計算書の作成の基礎としている会計処理の原則及び手続は、下記事項を除き正規の決算において採用している基準と同一のものを適用しております。正規の決算において採用している会計方針は「有価証券報告書 第 5 経理の状況 重要な会計方針」をご参照下さい。

事業年度の貸借対照表及び損益計算書の作成のために採用している会計処理の原則及び手続と異なる会計処理の基準は次のとおりです。

1. 固定資産の減価償却の方法 各四半期の減価償却費は年間発生見積額の 4 分の 1 に該当する金額を計上しております。
2. 法人税、住民税及び事業税の計上基準 法人税、住民税及び事業税は、年間の見積り法人税等の 4 分の 1 に相当する金額を計上しております。

なお、当該四半期の貸借対照表、損益計算書及び株主資本等変動計算書については、会計監査を受けておりません。

(6) 会計方針の変更

該当事項はありません。

II 第8期第1四半期の業績の概況（平成25年1月1日から平成25年3月31日）

当第1四半期におけるわが国経済は、一部に弱さが残るもののこのところ持ち直しの動きとなっております。
ホテル業界におきましては、回復の兆しが見え始めております。

このような状況のもと、当社は第1号「直営型ホテル」（千葉県）の建設に向けて、土地の売買契約の締結、ホテル建物の設計、地元・行政との調整に基づき、平成21年8月31日に都市計画法の開発許可を受け、平成22年3月9日に建築基準法の建築確認済証の交付を受け、平成23年度よりホテル建設代金を調達すべく本格的にホテル会員権販売を行ってまいりました。しかしながら、物件が千葉県の海沿いということで東日本大震災による地震と放射能への不安感により様子見に入られた方が多く、また当社のホテル運営経験が少ないことを危惧されるお客様もおられた事等から当初計画よりも遅延しており、現在のところ着工予定は未定となっております。

このような状況を踏まえ、当社は「直営型ホテル」（千葉県）の事業は継続して行っていますが、前事業年度に健全会計の観点から固定資産の減損に係る会計基準・同適用指針に基づき保守的に「直営型ホテル」の第1号に関わる建設設計料等の棚卸資産、土地代等の固定資産、及びファンド組成のための関係会社への出資金について減損処理を行い、また関係会社への立替金及び貸付金について貸倒引当を行いました。

また、「運営型ホテル」の第1号として、平成24年4月2日付にてタラサ志摩スパアンドリゾート株式会社と「タラサ志摩ホテル」（三重県）の運営受託に関する契約を締結し運営受託を開始いたしました。運営受託後3カ月間で準備を進め、平成24年7月7日には「タラサ志摩ホテル」を「ザ・レジェンドホテル タラサ志摩」としてリニューアルオープンさせました。この間、当社のホテルコンセプトに沿ってホテル施設の一部改装を実行するとともに、ホームページやリーフレットを一新する等、当社の掲げる理念をホテルとして具現化した初めてのケースとなりました。また、リニューアルオープン後の具体的なホテルオペレーションにつきましても、当社が目指す「ジェネラルマネージャーの自宅に招かれたような」寛ぎと癒しをお客様が体感できるよう、ジェネラルマネージャー及びアシエイツジェネラルマネージャーを新たに選任し、従業員に対する教育と指導を始めとするホテル環境の整備に尽力して参りました。しかしながら、「ザ・レジェンドホテル タラサ志摩」にかかる業務委託契約はホテル運営方針の相違により平成24年9月21日をもって終了いたしました。

これに伴い、新規に「運営型ホテル」第2号の運営受託に向けて営業活動を実施してまいりました。

一方で、当社の広告宣伝及びイメージアップの一環として講演活動、マスコミ対応等を全国レベルで行うとともに、経営及び運営に関する教育事業の一環として「人生をシフトさせる伝説の8日間」（第3期）のセミナー講座を開催しました。

加えて、「関わる全ての方を幸せにすること、そんな存在になること」をメインテーマとした研究機関である「レジェンド・アカデミア」の開設に向けての準備を進め、「レジェンド・アカデミア（特別プログラム）」の講座を開催しました。

また、お客様の消費活動が自動的にチャリティに繋がる仕組みを持った「W購入商品」（Wノート等）の商品販売も行っていました。

加えて、レジェンドホテル内で行われるチャリティ活動（100個の壺）の受け皿として、またチャリティ文化を促進し国民生活の向上と人類社会の繁栄に貢献することを目的に、平成23年3月に設立された「レジェンド一般財団法人」への支援も実施してまいりました。

以上の結果、当第1四半期の業績は、売上高6,780千円（前年同期比23.6%減）、営業損失4,629千円（前年同期は6,383千円の営業損失）、経常損失5,501千円（前年同期は7,899千円の経常損失）、四半期純損失5,574千円（前年同期は7,971千円の四半期純損失）となりました。

Ⅲ 第8期通期の売上高及び利益の予測について

当社の主要事業は「ホテル開発・運営事業」であり、ホテル開発・運営をセットで行う「直営型ホテル」と、既存ホテル等の運営のみの受託を行う「運営型ホテル」の両方を並行して行っていく方針であります。

現時点においては、「直営型ホテル」の第1号として千葉県の子物件を予定しておりますが、建設及び営業はいたしません。また、着工予定は未定となっております。

一方で、「運営型ホテル」の第1号として平成24年4月2日付にて「タラサ志摩ホテル」（三重県）の運営をタラサ志摩スパアンドリゾート株式会社から受託し、「ザ・レジェンドホテル タラサ志摩」として運営を行ってまいりましたが、ホテル運営方針の相違により平成24年9月21日をもって運営受託を終了いたしました。

当社としましては今回のホテル運営受託に伴うリニューアルオープンの実績が、第2号以降の運営型ホテルの受託に生きるものと確信しております。

前事業年度において企業会計ルールに基づいて減損処理を行ったことと「直営型ホテル」（千葉県）の事業継続性は別個の問題であり、今後も、「直営型ホテル」（千葉県）の会員権販売を継続して行うとともに、第2号「運営型ホテル」の運営を受注し運営実績を上げホテル運営の基盤作りと信用力向上を図ることが、「直営型ホテル」の会員権販売の加速に繋がると考えております。

これらのホテルが軌道に乗り、継続的な事業として確立するまでは不確実性が存在するため、当社では業績予想の開示は行っておりません。

IV 資金及び借入金の状況

(1) 現金及び預金の増減

(単位：千円)

科 目	期 別	第8期第1四半期	
		自 平成25年1月1日	至 平成25年3月31日
現金及び預金の増減額		△3,079	
現金及び預金の四半期首残高		6,206	
現金及び預金の四半期末残高		3,127	

(主な増減理由)

第1四半期の現金及び預金の主な増減理由は、税引前四半期純損失の計上による減少5,501千円、売掛金の減少額869千円、前受金の増加額1,254千円等によるものであります。

(2) 借入金が増減

科 目	期 別	第8期第1四半期	
		自 平成25年1月1日	至 平成25年3月31日
短期借入金の増減額		—	
短期借入金の期首残高		3,000	
短期借入金の期末残高		3,000	

(注) 第1四半期における増減はありません。

V その他

1. 調達資金の充当状況

(単位：千円)

項目	調達額	充当金額				土地残金
		ホテル土地の購入関連代金	ホテル開発・設計関連代金	販促・広告費	会社全体の運営資金	
第4期 (平成21年3月～平成21年12月)	190,700	(45,193)	47,830	17,801	79,874	109,000
第5期 (平成22年1月～平成22年12月)	95,560	18,000	39,367	22,536	15,655	91,000
第6期 (平成23年1月～平成23年12月)	60,720	23,000	8,995	20,521	8,202	68,000
第7期 (平成24年1月～平成24年12月)	28,160	—	1,729	7,558	18,871	(60,000)
合計	375,140	86,193	97,922	68,418	122,605	60,000

(注1) ホテル土地の購入関連代金の()内は、土地の購入代金に加え、遅延損害金の支払い分を含めたものであります。

(注2) 土地残金の()内は、平成24年6月30日に土地建物売買代金の変更(減額)を目的とした覚書を締結したことによるものであります。